

親潮

第 302 号
平成 25 年度 第 2 号

OYASHIO

北水同窓会誌

2013

302

No.2

北水同窓会 <http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp>



特集 北水の今

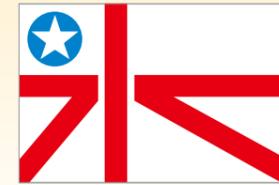
イカの飛行行動を解明する

- 総会案内
- おしよる丸展のご案内
- 会員の受賞
- 本部幹事長報告
- 追悼
- クラス会報告
- 書評 ほか

CONTENTS

第94回(2014年)北水同窓会定期総会 開催案内	3
「学船 洋上のキャンパスおしよろ丸」展のご案内	5
特集 北水の今	
イカの飛行行動を解明する	6
山本 潤(平5キ)	
会員の受賞	10
志尾 菊氏(昭34ソ)	
本部幹事長報告	11
北海道大学ホームカミングデー報告(札幌、函館)	
追悼	13
島崎 健二氏(昭33工) / 清水 八洲男氏(昭43工)	
支部会・クラス会報告	15
四丸会・大阪府支部合同の水産学部訪問記	
北水同窓会東京支部 平成25年度 定期総会報告	
昭和48年度 北大水産類入学+α同窓会	
北水同窓会広島県支部会'13報告	
北水同窓会函館支部 平成25年度 総会・懇親会	
7年目を迎えた支部月報「親潮青森」	
書評	20
学位取得	21
会員異動	21
会員死亡通知	22
親潮投稿規定・編集後記	22

第94回(2014年) 北水同窓会 定期総会



開催案内 [函館にて開催!]

ようやく春めいて参りましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。第94回北水同窓会定期総会を下記の通り函館にて開催いたします。本年は、竣工したばかりのおしよろ丸V世と函館市国際水産・海洋総合研究センターの見学会も併せて開催されます。多数の同窓のご出席を心よりお待ちしております。



日時 ● 2014年8月2日(土)

当日は、函館港まつり開催中[8月1日(金)~8月5日(火)]につき、宿泊施設、交通機関の混雑が予想されます。早めにご予約下さい。

第一部

函館市国際水産・海洋総合研究センター

函館市弁天町20-5
函館市電「函館どつく前」停留所から徒歩20分、またはJR函館駅からタクシー15分

受付 12:30~

おしよろ丸
研究センター見学会 13:00~14:00

講演会 14:00~15:30

窪寺 恒己博士(昭50ソ)
「ダイオウイカ、奇跡の遭遇—最新技術で迫る深海の世界—」

講師経歴
東京都中野区生まれ。1971年、北海道大学水産学部入学。1975年増殖学科卒業。1982年、北海道大学大学院水産学研究所海洋生態学専攻博士課程を修了後、米国のオレゴン州立大学海洋学部で研究助手を務める。1984年から国立科学博物館に勤務。2004年に、小笠原諸島沖の深海で、世界で初めて生きたダイオウイカの撮影に成功。2013年に放送された「NHKスペシャル シリーズ 深海の巨大生物」は、同氏のダイオウイカ撮影をとりあげて大きな反響を呼んだ。

第二部

五島軒 本店

函館市末広町4-5
(第一部会場からは送迎バスでご案内します)

受付 ● 16:00~
函館支部総会 ● 16:30~17:15
定期総会 ● 17:30~18:15
懇親会 ● 18:30~20:30
会費 ● 6,000円



参加ご希望の方は、別紙の申込用紙にご記入の上、**6月30日(月)までに**北水同窓会本部宛へFAXまたは郵送にてお申し込み下さい。また、申込用紙に記載の事項を、E-mailにてご連絡頂いてもかまいません。

北大では、卒業生の皆様にご利用いただけるWebサービス「アットフロンティア」をスタートしました。フリーメールの手軽さで北大ドメインのメールが使えて、他の卒業生との連絡機能も搭載。校歌や寮歌の演奏データがダウンロード可能なほか、北大発のイベントやビジネス情報も入手できます。生涯使えるメールアドレスで、他の卒業生や北大と、生涯つづくコミュニケーションを。

利用資格は“北大卒業生”、利用料は無料です。

北大ドメインのメールアドレスを無料でご提供します。

無料で取得できる hokudai.ac.jp ドメインのメールアドレスは、メールソフトからも Web メールとしても利用できますので、フリーメールのように便利なのに、北大ドメインなので高バリューです。利用期限がありませんので、普段使いのメールアドレスとしてご活用ください。もちろん、いつも使う職場や携帯電話のメールアドレスに転送することもできます。

北大の四季やイベント、研究成果やビジネス情報も。

北大で行われるイベント情報や、キャンパスに訪れる四季の様子など各種お知らせを毎月お届けします。北大発のビジネス情報、話題の講演会、画期的な研究成果からサークルの活躍まで、多彩な内容でお送りします。

なつかしの寮歌や校歌を携帯電話・PCでダウンロード。

あの日歌った校歌や寮歌も、時間が経つとうろ覚えに…そんなときは、@Frontier で歌詞やメロディをしっかりとチェックしましょう。“北大人”の集まりには欠かせません。もちろん、携帯電話の着信メロディにも使用できます。

登録ユーザ同士で検索して、連絡先を管理。

独自のアドレス帳機能で、他の卒業生との連絡手段として活用できます。連絡先が分からなくなった相手でも、氏名や学部学科など特定の情報が分かればメッセージをお届けします。

※送信相手は@Frontier メールアドレスを取得した卒業生に限ります。

生涯使えるメールアドレスで、生涯つづくコミュニケーションを。



@Frontier 新規登録申請方法

① Webサイトにアクセス

二次元バーコードを携帯電話で読み取るか、携帯電話・PC ブラウザで次の URL を入力してアクセスし「新規登録申請」をクリックしてください。
http://www.frontier.hokudai.ac.jp/



② 氏名や卒業学部を入力

登録申請フォームが表示されるので、必要事項を入力して申請手続きを行ってください。



③ アカウント送付

北大事務局により、卒業事実確認を行います（この作業にはお時間をいただく場合があります）。確認完了後、アカウント情報(ID およびパスワード)をEメールまたは郵便で送付します（通知方法は申請時の連絡先にEメール・ご住所のどちらかを指定したかによって異なります）。

@Frontier に関するお問い合わせは、北海道大学総務企画部広報課 (info@frontier.hokudai.ac.jp/011-706-2153) までお気軽にお寄せください。



学生支援の「北海道大学カード」

北大人の証明

北海道大学連合同窓会が発行する「北大カード」は、北大人としての証です。
(北大同窓生、在学生父母及び教職員限定)

一般カードは年会費永久無料！！
《ゴールドカードを除く》

一般カード



ゴールドカード
年会費10,500円(税込)

カードの利用額に応じて提携手数料がカード会社から還元されます。これを「学生支援資金」として奨学金などの学生支援に活用します。

特典

附属図書館の入館証
植物園の無料入園証
北大カード協力店の割引・優待
北大出版会書籍割引
希望者へ結婚式への祝電サービス
(総長・連合同窓会長連名による)
カード会社からの各種サービス など
(詳細は申込書等をご覧ください。)

お申込について

1. 専用の申込書を下記あてご請求ください。専用申込書を送付いたします。
2. 専用申込書に所定事項を記入・捺印いただき、ご投函ください。
3. カード会社の審査を経て、お申込から約1ヶ月後にカード会社から配達記録郵便にてご自宅あてお送りいたします。

申込書で請求先

北海道大学連合同窓会事務局（北海道大学総務企画部広報課）
〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
電話：011-706-2153
E-mail: kouhou2@jimuhokudai.ac.jp
※UCカードのホームページからも、申込書を請求できます。
(ホームページ下部の「資料請求」からお進み下さい。)
(http://www2.uccard.co.jp/join/college/hokudai.html)



北大総合博物館

企画展示

「学船 洋上のキャンパスおしよる丸」展が開催されます。

北海道大学水産学部が所有するおしよる丸IV世は平成25年度に引退し、新たに造船されるおしよる丸V世へその役割が引き継がれます。「消えゆく船」と「生まれる船」の交差する年度に総合博物館分館である「水産科学館」でおしよる丸をテーマにした展示を行います。水産科学館には、おしよる丸I世からIV世までの模型が展示され、おしよる丸IV世については映像でその活動を記録し紹介します。船内での活動の様子は、部外者にはほとんど知られていないため、貴重な映像資料です。おしよる丸V世の造船風景も公開します。



北洋航海 (2013年7月撮影)

主な展示内容

おしよる丸I世からIV世の模型、おしよる丸の紹介、船内活動の記録映像、写真、パネル、おしよる丸による研究成果、おしよる丸V世紹介

展示解説

学生による展示解説(ミュージアムマイスターコース社会体験型科目)

開催場所と日程

2014年5月～6月 2014年7月～9月

水産科学館

(函館キャンパス 水産科学館)



総合博物館

(札幌キャンパス 総合博物館)



主催者・問い合わせ先

北海道大学総合博物館

E-mail: museum-jimu@museum.hokudai.ac.jp 電話: 011-706-2658

北極海航行中のおしよる丸IV世 (2013年7月撮影)



イカの飛行行動を解明する

山本 潤(平5ギ)



■群れて滑空するイカ[撮影 村松康太(平23海生)]

約一年ほど前にイカが飛ぶことを、新聞やテレビで報じられたことを覚えていらっしゃるでしょうか？ 私が執筆の指導をし、大学院生(当時)だった村松康太君(平23海生)が執筆した論文"Oceanic squid do fly"が大きく取り上げられました。皆さんは、そのニュースを聞いて、北海道大学水産学部、おしよろ丸などの名前がでて懐かしく感じられたと思います。その一方で、“イカが飛ぶことは前から知られていたのでは？ いまさら何で？” と思った方もいらっしゃると思います。イカ研究の大家である奥谷先生が出版された“イカはしゃべるし空も飛ぶ”の表紙にもイカが水面上を滑空する写真も掲載されています。私たちの研究とどこが違うのでしょうか？ イカが“飛ぶ”という行動は、100年以上も前から世界中の海で目撃されてきましたが、この行動は予期せず起きるため、ほとんどの報告は目撃談を中心にした逸話的なものでした。それでは、表紙にもなったイカが滑空する写真は飛んでいる証拠ではないのか？ そのとおりです。この写真を基に、東京大学の東先生は詳細な航空力学的な解析を行っています。私たちの論文にも引用させていただきました。一体どこに私たちの論文の新規性とオリジナリティがあるのでしょうか？ みなさんに質問です。イカはどのようにして滑空状態に入ったのでしょうか？ どのような推進力を使って水面から飛び出し、どのように空中姿勢を変えて水中へと戻っていったので

しょうか？ 私たちは、水面からの飛び出しから入水までの一連の過程をデジタルカメラで撮影した写真を用いて解明しました。私たちは、その価値が雑誌に認められたと考えております。前にも触れましたが、このイカの行動は観察しようと思っても観察できるものではありません。2011年7月おしよろ丸のアップーデッキからカメラを構えて生物の目視観測をしていた村松君が撮影したものです。偶然といえば偶然ですが、彼は少ないチャンスをモノにしました。それでは、その行動について説明いたします。

イカの飛行行動は、その状態の違いから4つの段階で構成されていることがわかりました(図1)。

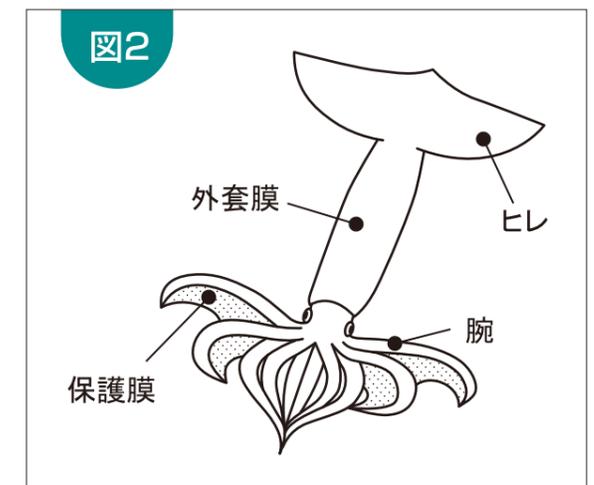
第一段階 飛び出し

漏斗から勢いよく水を噴射し水面から飛び出す。この時はまだ、ヒレと腕を上げていない。

第二段階 噴射

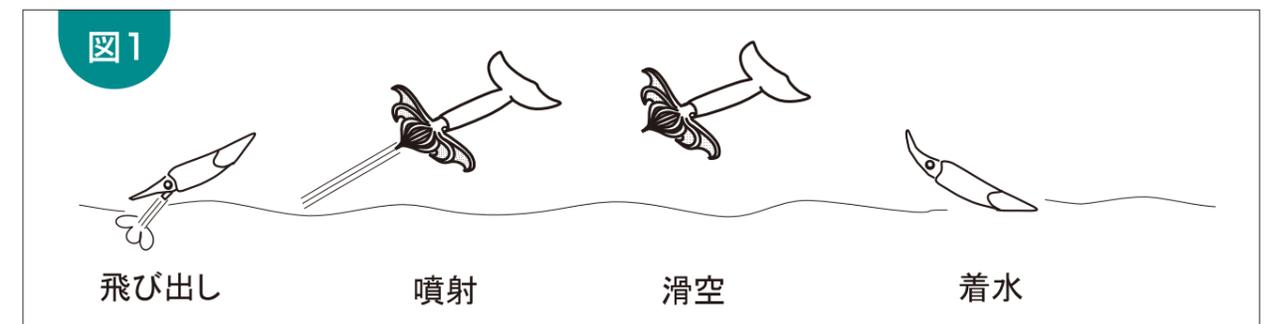
ヒレと腕を上げ、漏斗から水を噴射し続けて空

中でも加速する。空中の移動速度は8.8-11.2 m/s(メートル毎秒)。腕を上げた際に、腕の間にある保護膜も広がり、腕とともに“翼”のような形となる(図2)。



第三段階 滑空

噴射が終わると、腕とヒレを上げたまま滑空を開始する。この姿勢は、進行方向に向かってやや持ち上がり、ヒレと腕・保護膜の“翼”に発生する揚力のバ





■群れで滑空するイカ[撮影 村松康太(平23海生)]

ランスを取っている。外套膜は緊張状態を保ち、体の前後(ヒレと腕・保護膜)にかかる揚力に耐えて空中姿勢を安定させている。

第四段階 着水

水面が近くなると進行方向に対してやや下がった姿勢をとる。さらに、外套膜にヒレを密着させ腕をたたんで流線型の形になる。これにより入水時の衝撃が小さくなる可能性がある。

このように、イカはジェット推進力を使い空中姿勢を積極的に変化させながら飛行していることが明らかになりました。私たちは、この4段階の行動を「イカの飛行行動」と定義して、イカは本当に飛んでいること「do fly」を示しました。

今回の成果は分りやすく、みなさんにもイカの飛行行動を知ってもらうよい機会と思い、論文が掲載された日に大学の広報にプレスリリース(成

果の概要をマスコミ各社に告知)をお願いしました。プレスリリースがかかった時間から数分後から約3日間、取材の電話が鳴りっぱなし、テレビ局、新聞記者取材・・・と大変な目にあいました。ある記者さんによりますと、私の電話が繋がらないので大学の広報に電話したところ、広報にも電話が殺到していたらしく、広報の方が「こんな騒ぎは鈴木先生がノーベル賞を取って以来だ」とおっしゃっていたそうです。その話を聞いて私のこれからの研究生活の中で、今後このような騒ぎになることはないかと確信しました。

さて、イカの論文を執筆した村松君は大学院の修士課程を修了し、只今(2014年1月現在)航海士を目指して海王丸で2か月の実習だそうです。同窓誌にイカの飛行行動の記事の依頼が来ていると彼に伝えたところ、洋上からメッセージが送られてきました。

イカの飛行がニュースや新聞に取り上げられることになり、自分の研究成果が多くの人に知ってもらうことが出来ました。イカの写真を撮影してから論文を書き始め、何度も何度も書き直し、最終的に科学雑誌に掲載が決まるまでの一年半。修士論文との二刀流は大変でしたが、振り返れば充実した日だったと思います。

その反響は自分でも驚くものでした。小学校3年生の時の担任の先生からも連絡が届きました。もう20年近く前に教えてもらった先生でしたが、自分の昔の教え子とこのような形で再会出来て嬉しいとの事でした。また親戚、小中高の友人からの連絡も多くきました。久々に連絡をもらえた事が嬉しかったのですが、その連絡をくれた人たちが会社の同僚や知り合い、家族などにその事を伝えてくれたのです。更に学校の先生をしている友人たちとはやり取りを重ねて、生物の授業にイカの飛行を中心としたイカの生態や飛行する生物を特集してくれるとの事でした。また地域の教育ボランティアで勉強を教えている子どもたち

からもニュース見たよと声を掛けてくれたので、時間を見つけて「海の面白い生物」という名の授業もすることになりました。イカの飛行行動を解析した研究ですが、それを子どもたちに表面的な事ではなく、「何故イカが飛ぶのか?」、その問いかけから始まる答えを皆で考えて行く授業を行うことが出来たのは自分の中でも非常に有意義な時間でした。大学院に入学した時は教師になり、海の面白さを語れる先生になりたいと思い、海鳥や魚、鰭脚類、イカやタコなどを幅広く研究する研究室に進学しました。またおしよる丸の調査にも多く関わり、TAとしても長い時間従事し、下の学年の生徒に船内生活だけでなく海の事を教えてきました。しかし、ふとしたことから海運会社の航海士として働くことが決まり今年から海上生活の日々が始まります。いつか大学で得た様々な知識と、航海士として世界中駆け回った経験を子どもたちに還元し、海の素晴らしさを語れるようになりたいと思っています。

旧北洋研H24年修了 村松康太



さて、イカの飛行行動は、ご理解いただけたと思いますが、イカが飛ぶことは、海の生態系の中でどのような意味があるのでしょうか? 只今、論文を執筆しています。ご期待ください。

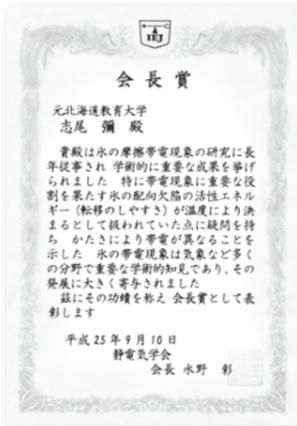
■イカール星人から取材を受ける筆者

某テレビ局の取材でイカール星人(函館のご当地キャラ)からインタビューを受けました。実はイカール星人の中身は、同窓生の記者さん(三宅 真人(平16生))で、汗だくになりながら頑張っていました。

会員の受賞

CONGRATULATIONS ON WINNING

志尾 彌 氏(昭34卒) 静電気学会会長賞受賞



「水の摩擦帯電現象の研究において、学術的に重要な成果を挙げた」として、「静電気学会」から「会長賞」として表彰されました。

今まで、学会賞等はずまらないものと思っておりましたが、誰か知らない方が当方の事をずうっと見ていて、推薦して下さいと知って人生の晩年満足感を覚えました。我が国の「静電気学会」(IESJ)はUSAの(ESA)やFranceの(IEEE)と連携を組んでいて、多分海外のConferenceで何度もお会いしていた方が推薦者だろうと想像しています。国際性の高い学会です。水産学部卒業後 理学部大学院へ進学、理学博士号を授与できましたが、これも「生理生態学講座」の「小林新二郎教授」の連日 熱心に0.1mm以下の真珠表層を顕微鏡観察なさっていた研究姿勢に学ぶところが多々あったと実感しています。

本部幹事長報告

北海道大学ホームカミングデー開催される

本部幹事長 齊藤 誠一(昭50ギ)



されました。講演の後、今年度YOSAKOIソーラン祭りの準大賞に輝いた公認学生団体「緑」の演武そして最後は「都ぞ弥生」の斉唱でフィナーレとなりました。

各部署・同窓会主催プログラムの詳細は北海道大学ホームページをご覧ください。

②水産学部ホームカミングデー行事

同日、水産学部では、「水産学部卒業生のつどい」と題し、水産学部と北水同窓会の共催で、百年記念館大会議室

平成25年9月28日、平成24年に続いて2回目となる「北海道大学ホームカミングデー」が、大学と各部署同窓会の共催で開催されました。

①歓迎式典・記念講演会

10:00よりクラーク会館にて北大全体のオープニングイベントとして、歓迎式典・記念講演会が開催されホームカミングデーがスタートし、北海道大学交響楽団の歓迎演奏の中で同窓生が入場しました。

まず、山口佳三総長の歓迎の挨拶と北大の近況について報告がなされ、引き続いて数土文夫北海道大学連合同窓会会長の歓迎の挨拶がありました。

記念講演では北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター統括の喜田宏先生が鳥インフルエンザ、パンデミックインフルエンザに関するお話を

においていろいろな行事が催されました。

14:00より水産科学研究所 教育・研究ポスター展を開催し、現在の水産学部・大学院の紹介を行いました。

16:00より嵯峨研究院長の挨拶に続いて、当日の水産学部行事のメインである原 正氏(昭和51年水産化学科卒)(高座名 笑生十八番(しょうせいおはこ))による寄席が開かれました。原氏は「笑いと人生」をテーマに、広く北海道から九州まで、寄席、講演活動などを行っております。当日も、原氏の出会った人間模様や札幌の町の話など、機知に富んだそして楽しい寄席を演じて頂き、聴衆のみなさんは心温まるひと時を過ごしました。

17:00より原氏も交えて懇親会(百年記念館ニコラスハウス)を催し、皆さん、昔話や友人の噂話に花を咲かせて、楽しい時もあっという間に過ぎ、ホームカミングデーを終了しました。

食品工場・厨房内の 自主検査のお手伝いをします。

HACCP・ISO 導入指導及び検証・評価・改善指導

- ★食品の微生物検査 ★施設類・道具・器具類の拭き取り検査 ★食品の賞味期限の設定
- ★食品・副資材・調理室内の微生物の除殺菌テスト ★衛生関係資材の販売
- ★各温度帯における保存テスト ★その他衛生指導、社員教育などのご相談をお受けします。

株式会社 キュー・アンド・シー

代表取締役 奥野 和弘 昭和42年製造

松原 伸二 昭和62年化学 久保 雅俊 平成12年資源 中川 恵介 平成23年生命 笹原 麻未 平成23年生命

分析室 〒065-0026 札幌市東区北26条東22丁目6-7 TEL:011-786-8300 FAX:011-786-8266
URL: http://www.qandc-lab.com/ E-mail: haccp@qandc-lab.com

本部幹事長報告

北海道大学ホームカミングデー in 函館 開催される

本部副幹事長 尾島 孝男(昭54化)

去る10月19日(土)、「ホームカミングデー in 函館」が開催されました。ホームカミングデーは、北大をご卒業された皆様と現役教員、学生間の交流と親睦を促す企画として2年前から札幌キャンパスで開催されております。水産学部卒業生にとっては、函館は札幌とともにまたそれ以上に思い出深い街ですので、本年度は函館キャンパスでも「ホームカミングデー in 函館」を開催することになりました。当日は、水産学部講堂、研究室、水産科学館および函館ビヤホールを会場に、様々な催しが開催されました。

まず、13:00から「研究室訪問の時間」がもたれ、久しぶりに来学された卒業生には出身研究室を自由に訪問して頂きました。

15:00からは、このホームカミングデー最大の催し物である講演会を、大塚ホールディングス(株)代表取締役社長兼CEO 樋口 達夫氏(昭和50年水産食品学科卒)を演者にお招きして講堂で開催いたしました。同氏は1977年3月北海道大学大学院修士課程修了(水産学/食品化学専攻)後、同年4月大塚製薬株式会社入社 大塚商品研究所に配属され、その後海外勤務などを経て、現在の役職に就かれています。

講演会をはじめにあって、ご来賓の三上 隆北海道大学副学長よりご挨拶を頂きました。その



後、樋口氏の大学院時代の同期生であられる高橋 是太郎教授より、当時の樋口氏の研究課題やそれに関わるエピソードなどのご紹介がありました。

ご講演では「21世紀の社会で活躍するひととはどんな人かービジネス世界からの視点ー」との演題でお話頂きました。大塚製薬の活動、運営方針、企業社会の成り立ち、学術研究と社会の関係などについて、幅広く、また深く掘り下げたお話をご紹介下さいました。樋口様の熱のこもったご講演は、質疑を含め予定時間を大きくオーバーすることとなりましたが、現役学生多数を含む218名の聴衆の皆様へ深い感動を与えたものと確信いたします。

18:00からは函館ビヤホールにて懇親会を開催し、樋口氏を囲んで多くの卒業生の皆様と旧交を温めました。会には現役学生も参加しており、年齢や立場を超えた楽しくもまた有意義な交流の時を過ごしつつ、盛会のうちに「ホームカミングデー in 函館」を終えることができました。

末尾になりましたが、ご講演を賜った樋口氏をはじめ、ご来賓の皆様、ご参加くださった卒業生および現役学生の皆様、会の開催に際し多大なるご協力を賜った教員の皆様、事務の皆様には、同窓会幹事会より深く御礼申し上げます。

追悼寄稿

島崎健二先生(昭33エ)のご逝去を悼んで

齊藤 誠一(昭50ギ)

北海道大学名誉教授島崎健二先生は、平成25年8月25日に、五稜郭病院にて、享年79歳(満77歳)で、ご逝去されました。十数年前に手術された胃がんが再発され、それが原因でお亡くなりになりました。ただし、最期は苦しむこともなく往生の素懐を遂げられました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。



島崎先生は、昭和10年8月27日札幌市に生まれ、昭和33年3月北海道大学水産学部遠洋漁業学科を卒業後、昭和34年3月同学部特設専攻科を修了されました。昭和34年7月北海道大学水産学部練習船北星丸技術員に採用、昭和37年4月同練習船北星丸助手(三等航海士)、昭和42年4月同大学水産学部附属北洋水産研究施設助手に配置換、昭和52年7月同助教授、昭和62年4月同教授に昇任され、北洋水産研究施設海洋生態学部門を担当されました。平成7年4月には学部改組に伴い、海洋生物生産科学科資源生態学講座を担当、平成11年3月北海道大学を停年により退官し、同年4月北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

北海道大学水産学部在任中は、長年にわたってオホーツク海、北太平洋亜寒帯海域における海洋生態学の教育、研究に従事され、昭和52年3月「オホーツク海におけるサケ属幼魚の分布特性に関する研究」の論文によって、北海道大学から水産学博士の学位が授与されました。

奉職以来、オホーツク海のサケ類・ホッケ幼魚の

生態学的研究を始めとして、亜寒帯海洋の生態的研究を先導されました。さらに、昭和50年代からは、北海道大学水産学部附属練習船「おしよ丸」と「北星丸」の学生実習航海を利用した亜寒帯海洋の環境と生物のモニタリング調査を企画・実行され、この成果は、北太平洋における海洋環境と生物モニタリングの先鞭として、国際的にも高い評価を得ています。また、海獣類トドの調査にも着手され、漁業被害との関連から野生海洋動物保護と沿岸漁業の共存という新しい課題にも積極的に取り組んで来られました。

教育面では、特に大学院教育に特段の配慮をされ、これまでに同先生主査のもとでの学位取得者は、12年間の教授在任中、学内で19名、学外で4名、海外で5名を含む計28名にものぼります。この他、修士修了者を含めた多くの方たちは、現在それぞれの分野で社会的にも学問的にも重要な地位を占めて活躍されています。

大学・学部の管理運営面においては、平成元年から平成3年3月までおよび平成5年4月から平成7年3月まで北海道大学水産学部附属北洋水産研究施設長、平成4年から平成11年まで北海道大学評議員を歴任され、本学および学部の管理運営に尽力されました。

学会活動においては、水産海洋学会の北洋研究シンポジウムを毎年開催され、研究の普及・啓発にも尽力されました。平成14年からは、現在の公益財団法人・北水協会理事長を10年間勤められ、北海道の漁業振興のための調査研究の発展に尽力されました。さらに函館大学非常勤講師、北水同窓会函館支部長などを歴任されてきました。

以上のように、島崎先生は教育・研究者として優れた功績と業績を挙げられ、学術の振興に貢献されました。

ここに謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

追悼寄稿

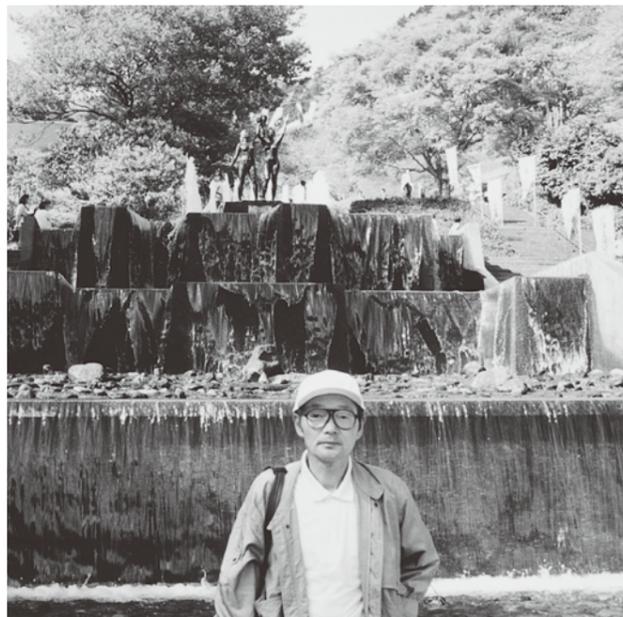
清水ハ洲男君(昭43エ)の死を悼んで

大野 孝(昭43エ)

平成25年もあと1ヶ月足らずの師走を迎えた12月6日朝7時頃突然携帯電話が鳴り「この早い時間に何か?」と思いながら受信ボタンを押すと清水さんの奥様からの電話で「昨日主人が亡くなりました」との知らせ、その瞬間自分の耳を疑うと同時に頭の中が真っ白になり返答も出来ないパニック状態でした。

清水さんはもともと糖尿病の持病があり数年前には心臓の手術をされていましたので常日頃から健康には十分注意されていたのですが…

彼とはいつも電子メールで近況についてやり取りしていたメル友でそのやり取りの中で11月30日から2泊3日の日程でご家族と一緒に東京ディズニーランド、皇居、お台場、浜離宮更には横浜港、山下公園等を散策され生涯の趣味であるカメラ撮影を兼ねての楽しい旅行に出かけるとのことだったのでハードなスケジュールの旅行が帰宅して3日



目で突然の急逝(病名は心筋梗塞)に至ったこと日頃から体調については充分気を付けていただけに誠に残念で仕方がありませんが一方では最後にご家族皆様でカメラを片手に楽しい旅行が出来たことが本人にとって本望だったのではと思われます。

清水さんは北海道立月寒高等学校から昭和39年北大に入学、昭和43年3月水産学部遠洋漁業学科卒業、昭和44年3月専攻科修了後浜松市のヤマハ発動機(株)に入社し退職するまで全国津々浦々北海道から沖縄まで港町、漁村等を営業一筋の仕事で歩き回っていたようです。仙台支店在職中にご結婚され、三人の娘さんを授かり円満な家庭を築いていたことがその温厚な人柄から想像されます。

退職後は最愛の奥様と一緒に温暖な浜松の地で家庭栽培でいろいろな作物の収穫に汗を流す一方で趣味のカメラ撮影に近隣に出かけている日々でした。

彼の人柄は同期はもとより後輩にも慕われ、常にリーダー的な役割を果たして同期の仲間をまとめていただきました。浜松においても退職後は地域町内会の活動にも積極的に参加され自治会長や民生委員の要職を務められ地域社会に貢献されました。平成23年に浜松で行われた同期会では幹事長としてこの会をまとめられ大成功の立役者となり出席者からは大いに感謝されたことは忘れられない思い出となりました。

今年(平成26年)10月には札幌にて同期会を開催の予定でその時の再会を同期仲間一同楽しみにしていたところでした。

長寿社会を迎えている日本ではこれから充実した楽しい余生を奥様やご家族皆様と送ろうとしていた時に享年70歳にて天寿を全うされたことは練習船おしよ丸・北星丸で同じ釜の飯を食べた仲間としてはまだまだ長生きしてほしいというのが本当の思いで寂しい限りでいっぱいです。

ここに学生時代より今日に至るまで貴兄にいただいた友情に感謝いたし謹んで心よりお悔やみ申し上げご冥福をお祈り申し上げます。合掌

クラス会
報告四丸会・大阪府支部合同の
水産学部訪問記

入江 和彦(昭45ギ)



四丸会〔会長：島田好彦(昭47ギ)〕は、関西地区の昭和40年代卒業生の自然発生的な集まりで、不定期で年に数回懇親会を行っています。11名が参加した7月6日の四丸会で、函館周辺の観光のほかに、水産学部を訪問して同窓会本部との交流、四丸会会員の前セレッソ社長の藤田さん(昭48ギ)による学生への講演会実施などしたらどうか話が盛りまりました。そこで、同窓会の幹事長である齊藤先生に大阪府支部の田中支部長(昭50食)から連絡をとってもらおうと共に、大阪府支部と四丸会合同で実施することになりました。その結果、7名の参加で11月5日～7日の2泊3日の日程で、5日学部訪問、6日函館周辺の観光をすることが決まり、事務局の私が、齊藤先生と学部訪問の具体的な内容を相談させていただきました。

5日14:00に齊藤先生までお伺いし構内の各施設を案内していただきました。特にマリンサイエンス創成研究棟では産学官が一体となって函館発展のために活動されていることを聞き、我々の在学時代との大きな違いを感じました。

15:00～18:00の講演会・交流会では、齊藤先生に立派な掲示用のポスターを作成していただきました。

その内容は、

水産学部・北水同窓会共催セミナー開催
「シリーズ 活躍する卒業生」

演題:育成型クラブを目指して

講師:藤田信良氏(前セレッソ社長(昭48ギ))

時間:午後3時から午後5時

午後5時から午後6時 交流会(参加費無料)

場所:管理研究棟6階 大会議室

世話人 海洋計測学講座 齊藤誠一

本セミナーは、横断型特論(2時間)として認定されます。

と言うものであり、力を入れていただいたのがよくわかりました。この講演会・交流会に、世話人の齊藤先生、高橋先生(同窓会前幹事長)、学生30名、函館周辺在住のOB3名、私ども7名、計42名が参加しました。

講演会の内容は、如何にしてセレッソが選手を育てているのか、その仕組み、考え方、育ててゆく為のソフト・ハードの条件は何か、観客を動員する為には何が有効か、セレッソのDNAである攻撃型サッカーをする監督の選抜、日本だけでなく広く若い人材を求め育てるため、東南アジアでの選抜と奨学金授与の実施など多彩なものでした。学生は多に興味をそそられた様子で熱心に講演を聴き、将来を考える上で一つのヒントになったのではと考えています。講演会後の交流会では、ノンアルコール飲料とおつまみが用意され、先生、OB、学生間で話がおおいに盛りまりました。

その後、学外の居酒屋で懇親会が開催され、齊藤先生、高橋先生、函館のOB2名、我々関西からの7名、計11名が参加しました。函館の美味しい海産物を充分堪能することが出来ました。

6日は、各自別行動をとって、晩に居酒屋に集合することになりました。私を含めた4名は、レンタカーで、大沼公園、鹿部間歇泉公園、函館山山頂、立待岬など周りました。1名は、フェリーで海を渡り大間までマグロを食べに行きました。夫婦の2名は、レンタカーで買い物・観光などしました。

クラス会
報告

7日は、午前中に自由市場に行きお土産用の海産物を購入した後、ホテルをチェックアウトし午後2時の日航で帰途につきました。

今回、四丸会で函館に行こうと盛り上がり大阪府支部との共同企画として、以上の様に実施できましたのは、齊藤先生、高橋先生、田中北水大阪府支部長など、皆様のご協力の賜物です。特に、齊藤先生には、お忙しい中、構内の案内、講演会・交流会や懇親会の段取りをさせていただき感謝に堪えません。お蔭さまで、有意義な充実した2泊3日の小旅行となりました。

また、来年の8月上旬には、新おしよろ丸の竣工式、同窓会総会が同時に開催されるとお聞きしました。その時も是非参加したいと考えています。

今後とも、四丸会、大阪府支部とのお付き合いのほど宜しく御願ひ致します。

最後に、今回参加したOB名を記しておきます。
関西から
吉川圭一(昭44エ)、米谷孝治(昭44食)、
入江和彦(昭45ギ)、島田好彦(昭47ギ)、
藤田信良(昭48ギ)、大村泰治(昭51食)、大村氏奥様
函館から
古谷真水(昭44食)、寺尾豊光(昭47ギ)、
福井 滋(昭50食)

北水同窓会東京支部
平成25年度 定期総会報告

浜谷 一郎(昭51化)

平成25年2月4日(月)18時30分より、銀座ライオン(6F)クラシックホールにて北水同窓会東京支部の総会及び懇親会が開催されました。

本年度は役員改選期に当たり、新支部長に樋口達夫前副支部長(昭50食)が選出されました。

会は樋口新支部長就任の挨拶の後、懇親会が続けて新支部長による乾杯の発声で賑やかにスター

トしました。

会場は118名の参加者で一杯となり、そこかしこで一年振りの再会を喜び、例年以上の熱気に溢れていました。

本年も、女性会員、新入会員をはじめ若手の会員と中堅、ベテラン会員がバランス良く構成され、皆が気さくに且つ熱心にネットワークを確認し合っていました。この様な所が、東京支部総会が盛会を維持できる秘訣かと思われま。

途中、「吾が会社のPRタイム」と称する3社の若手会員による、企業や自分の仕事の紹介がパフォーマンスを交えてパワフルに行われ、大いに会場を沸かせていました。

又、本年の「北水同窓会 定期総会」の開催地の名古屋から神保重孝幹事長(昭54ギ)も駆けつけ、定期総会の紹介と参加の呼び掛けを行いました。

最後は参加者全員が肩を組み「水産放浪歌」「都ぞ弥生」の大合唱で最高潮に達したところで、細見典男副支部長(昭48食)の中締めの方歳三唱で名残を惜しみつつ、宴は閉会となりました。

尚、次年度の東京支部定期総会は平成26年2月3日(月)に本年同様、銀座ライオン(6F)クラシックホールにて開催予定で有ります事をこの紙面を借りて報告させていただきます。

昭和48年度北大水産類入学
+ α同窓会

山下 成治(昭54ギ)・清水 晋(昭53ギ)
梶原 善之(昭53ギ)・蛇沼 俊二(昭53ギ)

この同期会は、昨年の春、「梅雨入りの季節になりました。同窓各位にはいかがお過ごしでしょうか。さて、私たちが昭和48年に北海道大学水産類に入学して40年が経過いたしました。…」に始まる魚住昭文君からの突然メールではじまりました。その後北出君の発起人、柳川君を事務局として

下記のように同期会を計画・実施されました。

日時	2013年7月20日(土)	
会場	京王プラザホテル(札幌) 18:00~	
1. あいさつ	北出 弘君	
2. 乾杯	魚住 昭文君	
3. 一人2分間の近況報告		
4. 寮歌など	前口上 表 芳弘君	
5. 北大の現状報告	蛇沼、清水、山下、梶原	
6. 一本締め	柳川 延之君	

卒業後の長い時の経過の中で、各自色々な出来事に出会い経験を重ね、この会ではそれらを、学科を超え語り合うことが出来ました。

楽しい時間もあっという間に過ぎ、4年後、函館の地での再会を約束して(次回担当、函館メンバー)お開きとなりました。44名参加の盛会となり、ほとんどの事務仕事を引き受けてもらった柳川君に感謝。



[参加者]

- | | | | |
|------------|-----------------|------------|------------|
| ① 一條 雄治(漁) | ② 山田 康次(漁) | ③ 上田 勉(食) | ④ 小熊 孝幸(食) |
| ⑤ 山内 訓司(漁) | ⑥ 倉田 隆喜(化) | ⑦ 佐藤 茂和(漁) | ⑧ 梶原 善之(漁) |
| ⑨ 山下 成治(漁) | ⑩ 鈴木 孝輝(漁) | ⑪ 日山 克之(増) | ⑫ 桑原 幸範(漁) |
| ⑬ 藤田 敏雄(食) | ⑭ 会田 清三(漁) | ⑮ 今野 幸広(漁) | ⑯ 宇佐美勝義(漁) |
| ⑰ 蛇沼 俊二(漁) | ⑱ 辻奥 宏昭(化) | ⑲ 工藤 真弘(増) | ⑳ 神保 重孝(漁) |
| ㉑ 元木 秀人(増) | ㉒ 柳川 延之(漁) | ㉓ 須永 久(漁) | ㉔ 河野 象威(漁) |
| ㉕ 井ノ口伸幸(増) | ㉖ 梅田 勝博(増) | ㉗ 石橋 秀昭(増) | ㉘ 清水 晋(漁) |
| ㉙ 等々力順祐(漁) | ㉚ 木村 講次(漁) | ㉛ 田中弘太郎(漁) | ㉜ 全先 清通(漁) |
| ㉝ 前村 隆志(漁) | ㉞ 浅野(加賀谷)とも恵(食) | ㉟ 真鍋 康利(漁) | ㊱ 高橋 正士(漁) |
| ㊲ 表 芳弘(漁) | ㊳ 長谷田(増元)路加子(増) | ㊴ 中間 悟(漁) | ㊵ 木戸 芳(増) |
| ㊶ 魚住 昭文(漁) | ㊷ 中川 泰成(漁) | ㊸ 北出 弘(漁) | ㊹ 原 猛也(漁) |

クラス会
報告

北水同窓会広島県支部会'13 報告

北辻 さほ(平17海)



【前列左から】

佐藤 之紀(昭59ゾ)、中山奈津子(平15海)、北辻 さほ(平17海)、森岡 泰啓(昭38ゾ)

【後列左から】

永井 達樹(昭48修漁)、羽原 浩史(昭55化)、井関 和夫(昭46ゾ)、伊藤 篤(平5ゾ)

平成25年10月26日(土)午後5時より、北水同窓会広島県支部会'13がJR広島駅ビル内のビヤダイニング広島ライオンにて開催されました。

森岡支部長の挨拶、乾杯の音頭で開宴し、引き続き、支部活動についての報告がありました。参加者8名の自己紹介の後、県立広島大学大学院教授の佐藤之紀氏(昭59ゾ)による講演「食品には機能があるほうがよいのか、ないほうがよいのか？」を聴講しました。「機能性食品」という言葉の由来から始められた講演では、多種類の食品を摂取することが健康の秘訣であり、程よい飲酒もまた健康に良いと紹介されたところで、宴は賑やかに盛り上がりしました。

また、堀田敬三氏(前支部長、昭35セ)より託されたおしよ丸Ⅱ世の帆走写真パネルが披露されると、その雄姿に惹きつけられた一同の思い出話は絶えることはなく、パネルは講演を務め、奇しくも北水同窓3代目の佐藤氏に受け継がれることとなりました。

次年度も同時期に開催すること、次回の設営と会計担当者、話題提供者(題未定、伊藤 篤氏(平5ゾ))などを決めて、閉会となりました。

北水同窓会函館支部
平成25年度 総会・懇親会

片岡 大介(平22海生)

平成25年7月19日(金)、支部会員47名が出席され、ホテル函館ロイヤルにて平成25年度北水同窓会函館支部の総会及び懇親会が開催されました。

総会では志賀直信支部長(昭44ゾ)の挨拶と北水同窓会本部の蛇沼俊二氏(昭53ギ)の挨拶の後、函館支部の種田貴司幹事長(昭56食)の司会進行の下、平成24年度事業報告と決算報告及び平成25年度事業計画と予算、役員が承認されました。なお、秋の同窓会(懇親会)について、今年は11月上旬頃に予定していることも併せて報告されました。

引き続き、羽田野六男氏(昭31セ)の乾杯の発声で懇親会が始まりました。懇親会の途中には北海道大学水産学部オーケストラ4名による弦楽四重奏が行われました。学生代表の遠藤祥子さんの曲目紹介を交えつつ、出席者全員がゆったりと演奏を楽しむと共に、現役の後輩の活躍に感動を覚えています。

演奏終了後、北水オーケストラのメンバーにも懇親会の席に加わってもらい、先輩諸氏から歓迎を受けていました。

最後に筆者である片岡大介(平22海生)の締めの乾杯の発声の後、記念写真に続き、石田利夫氏(平7ギ)の前口上で「水産放浪歌」を全員で肩を組み合わせ歌い、次回の再会を約束し散会となりました。

なお今回、函館に転勤されてきた方々を含めて新規に出席された会員が多くいらっしゃいました。また特別会員の鶴沼ワカさんも参加され、多くのOBの方々と旧交を温め、大いに盛り上がりましていました。

支部活動
紹介
コーナー

7年目(76号)を迎えた支部月報「親潮青森」

北水同窓会青森支部 支部長 佐藤 立治(昭36エ)

2007年正月、支部会合において、北水同窓会青森支部の月報「親潮青森」の発行が協議され、直ちに第1号を刊行、以後よどみなく発行され、2013年7月で75号に達している。

A4版10ページ前後、執筆陣4~5名、毎月第1火曜日、配布、併せて昼食会を行っている(青森市内喫茶店)。月報の内容は、文学、随想、スポーツ、自然、趣味、その他森羅万象、夫々楽しんで執筆している。発行の経費・昼食会とも小遣い程度、全て自己責任。楽しむことがモットーで、目標は300号程度(残り20年)。



北水同窓会 函館支部 総会・懇親会 2013.7.19 於 ホテル函館ロイヤル

出席者

- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|--------------|
| 羽田野六男(昭31セ) | 後藤 晃(昭45ゾ) | 松塚 康輔(昭57ゾ) | 阿部 慶太(平5化) |
| 高野 和則(昭32ゾ) | 高橋 玄夫(昭46化) | 小林 良一(昭57食) | 鹿儀 純志(平6ギ) |
| 菊地 英樹(昭34エ) | 中林 重雄(昭47ギ) | 藤田 公美(昭57ギ) | 石田 利夫(平7ギ) |
| 澤崎 達孝(昭37ゾ) | 吉田 正人(昭48ゾ) | 鶴喰 誠(昭59ゾ) | 小園 敏弘(平9ギ) |
| 泉 滋(昭37エ) | 佐々木俊雄(昭49ギ) | 小野 浩(昭59食) | 宮崎 和貴(平10ゾ) |
| 奥野 信博(昭40エ) | 上戸 慶一(昭50化) | 大島 六生(昭60化) | 岸元 祐二(平15海) |
| 米田国三郎(昭40エ) | 我妻 雅夫(昭52ゾ) | 山本 洋一(平2ギ) | 毛利 隆志(平16生) |
| 水戸 孝夫(昭43ギ) | 蛇沼 俊二(昭53ギ) | 三原 克幸(平2ギ) | 鋪 明子(平19資) |
| 志賀 直信(昭44ゾ) | 澤口 記子(昭53化) | 橋野 誠司(平2食) | 笹川 英里(平20生) |
| 高橋 豊美(昭44エ) | 池津 裕文(昭56ゾ) | 柳町 琢也(平4化) | 片岡 大介(平22海生) |
| 伊藤 悦郎(昭45ギ) | 石井 良夫(昭56ゾ) | 澤村 正幸(平5ギ) | 鶴沼 ワカ(特別会員) |
| 三佐川 稔(昭45ギ) | 種田 貴司(昭56食) | 兵庫 隆俊(平5ギ) | |

書評

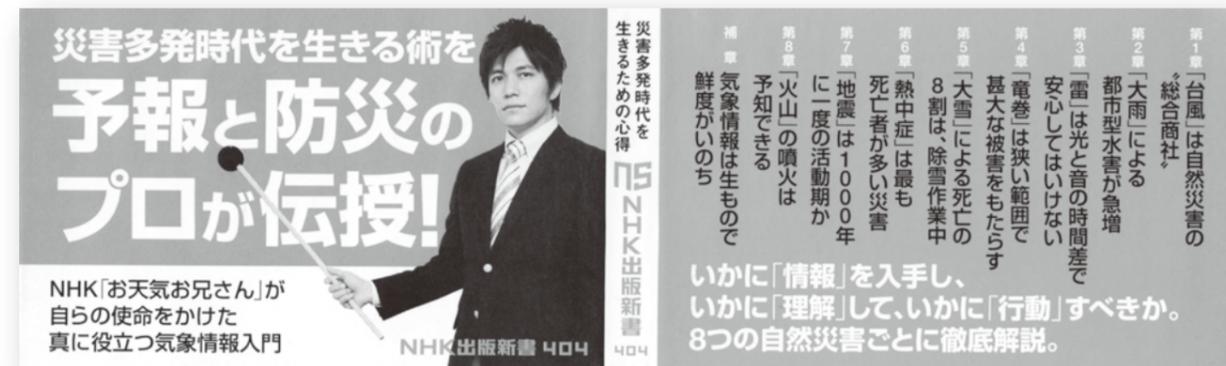
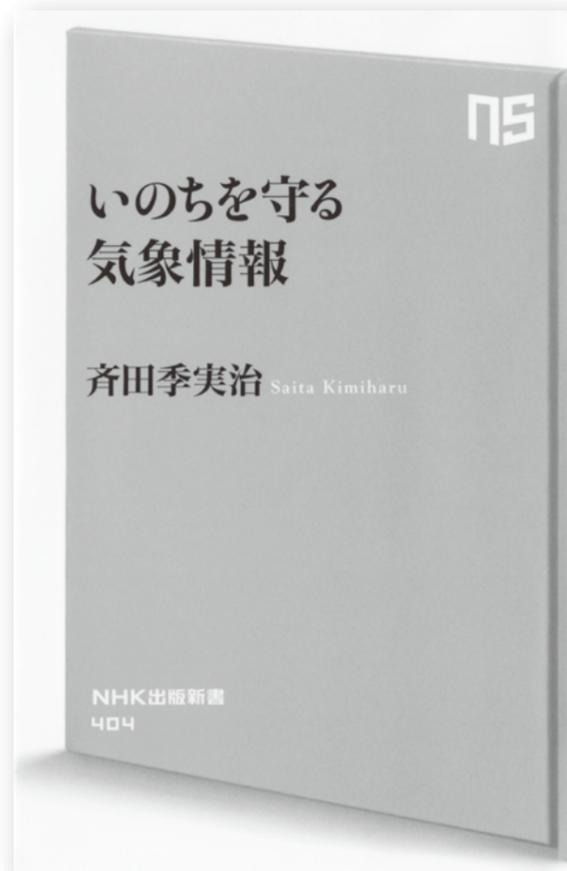
「いのちを守る気象情報」

齊田 季実治(平12海) 著
NHK出版新書

水産学部OBで、現在、関東圏で放送されている「首都圏ニュース845」と全国区で放送されている「NEWS WEB」に気象キャスターとして出演している齊田季実治氏が執筆した気象情報を実際にどう生かすかを分かりやすく書き下ろした渾身の一冊。在学中に気象予報士の資格をとり、卒業後、報道の現場で自然災害を目の当たりにしてきた氏が気象災害から生命を守るすべを伝える真に役立つ気象情報入門書。

毎年のように耳にする台風や熱中症といった自然災害。ニュース番組では気象情報は必ず伝えられるものの、我々はそれらの情報を正しく理解し、これから起こる可能性がある自然災害に対して適切に行動できるであろうか？本書ではニュースで得られる気象情報から、「台風」、「大雨」、「雷」、「竜巻」、「大雪」、「熱中症」、「地震」、「火山」の災害に対してどのように行動するかがコンパクトにまとめられている。是非とも、ご自身やご家族の「いのちを守る」ための一冊にして頂きたい。

藤本 貴史(平12生)



□学位取得者

【平成25年6月取得】

取得者	論文題目
佐々木 裕子	北西太平洋亜寒帯域およびベーリング海・チャクチ海における鯨類の空間分布様式
Mega Laksmi Syamsuddin	Spatial and temporal distributions of bigeye tuna (<i>Thunnus obesus</i>) catches affected by oceanographic condition and ocean climate variability in the eastern Indian Ocean off Java (東部インド洋ジャワ島沖合における海況および気候変動とメバチマグロ漁獲量の時空間分布)
目黒 悠一郎	The reproductive isolation mechanisms between the closely related nine-spined stickleback species, the freshwater type and the brackish water type of <i>Pungitius pungitius</i> , and its evolutionary interpretation for each of their speciation processes (トミヨ属淡水型と汽水型間における生殖的隔離機構および各種の種分化プロセス)

【平成25年9月取得】

取得者	論文題目
Safruddin	Estimates of Japanese sandeel (<i>Ammodytes personatus</i>) distribution and biomass in the northern coast of Hokkaido, Japan, using a quantitative echosounder (計量魚群探知機を用いた北海道北部沿岸域におけるイカナゴ (<i>Ammodytes personatus</i>) の分布と生物量の推定)
隼野 寛史	網走湖産シラウオ <i>Salangichthys microdon</i> の生活史と個体群動態、および資源の持続的利用に関する研究
檀 永凱	Functional analysis of dermatopontin (Dpt) in zebrafish <i>Danio rerio</i> (ゼブラフィッシュ <i>Danio rerio</i> におけるデルマトポンチン (Dpt) の機能解析)

【平成25年12月取得】

取得者	論文題目
Monruedee Chaiyapo	Comparative anatomy and phylogenetic systematics of lizardfishes (Actinopterygii: Aulopiformes: Synodontidae) (エソ科魚類の比較解剖学ならびに系統分類学に関する研究)
濱岡 直裕	ホタテ貝卵巣発酵醸造物の化学特性に関する研究

□会員の異動

大学院水産科学研究院	■■■■	該当なし
水産学部	■■■■	該当なし

会員死亡通知

石田 正巳 (名誉会員)	平成24年 5月12日	学内より
細谷 勇治 (特別会員)	詳細不明	羽田野六男(昭31セ)様より
遠藤 信二 (昭13ヨ)	平成25年 4月13日	ご家族様より
宮原 九一 (昭14ギ)	平成25年10月12日	ご家族様より
島崎 清康 (昭17ギ)	平成25年10月26日	ご家族様より
土屋 要 (昭17ギ)	平成25年 6月 2日	ご家族様より
馬場 勝彦 (昭18ギ)	平成25年11月27日	青森支部様より
小滝 寛長 (昭18セ)	平成25年 8月31日	ご家族様より
太田 博 (昭19セ)	平成24年 5月17日	ご家族様より
鴻江 公夫 (昭20ギ)	平成25年 6月16日	ご家族様より
阿部 茂夫 (昭22ギ)	平成25年 7月 5日	ご家族様より
府川 博一 (昭22ギ)	平成25年 1月22日	市川 渡(昭22ギ)様より
板橋 勲 (昭22セ)	平成25年12月22日	ご家族様より
藤田 惣吉 (昭22ゾ)	平成24年 9月30日	伊丹 宏三(昭23ゾ)様より
寺井 豊彦 (昭23ゾ)	平成25年 3月15日	ご家族様より
直江 昭良 (昭24ギ)	平成25年 4月 3日	ご家族様より
村山 幸三 (昭24ギ)	平成26年 1月 7日	青森支部様より
平原 誠也 (昭24教ギ)	平成24年 6月	金谷佳代士(昭25ギ)様より
坂本 喜三男 (昭24エ)	平成25年 8月16日	内田 正文(昭50化)様より
日野 勝雄 (昭24エ)	平成25年 9月 7日	安井 敬一(昭24エ)様より
別司 榮四郎 (昭24エ)	平成24年11月20日	ご家族様より
北林 浩 (昭24セ)	平成25年 6月 7日	ご家族様より
工藤 善美 (昭24ゾ)	平成25年 5月 3日	ご家族様より
丹野 浩成 (昭24ゾ)	平成25年 4月22日	ご家族様より
鈴木 金吾 (昭25教ギ)	平成25年12月15日	佐藤 秀雄(昭42ギ)様より
大谷 昭司 (昭25セ)	平成25年 9月 7日	ご家族様より
鈴木 慶照 (昭25セ)	平成25年 1月27日	ご家族様より
藤林 雅弘 (昭25セ)	平成25年 8月14日	ご家族様より
西長 秀雄 (昭25ゾ)	平成25年 8月 5日	村山支部様より
玉木 弘 (昭26ギ)	詳細不明	
中森 正義 (昭26ギ)	平成26年 2月 2日	ご家族様より
大黒 哲 (昭26エ)	平成25年10月29日	木島 登(昭33エ)様より
深谷 典雄 (昭26エ)	平成25年 9月 6日	前田 辰昭(昭26エ)様より
森本 博之 (昭26ゾ)	平成26年 1月20日	木村 順治(昭26ギ)様より
佐藤 昌二 (昭28エ)	平成25年 7月16日	ご家族様より
藤岡 隆 (昭28エ)	詳細不明	手島 邦明(昭28エ)様より
岩田 邦郎 (昭28セ)	平成26年 1月 4日	小西 一夫(昭28セ)様より
今井 辰一郎 (昭28ゾ)	詳細不明	
高橋 裕 (昭29ギ)	平成24年10月18日	池田昌一郎(昭29セ)様より
山脇 健吾 (昭29ギ)	平成25年10月11日	川原 浩(昭29セ)様より
竹村 恒男 (昭29セ)	平成25年 7月31日	池田昌一郎(昭29セ)様より
桑野 隆雄 (昭31ギ)	平成25年10月22日	池田 康(昭51ギ)様より
水路 順三 (昭31ゾ)	平成25年 2月15日	羽田野六男(昭31セ)様より
大八木 鉄也 (昭32エ)	平成25年12月31日	梶原 武(昭40ギ)様より
島崎 健二 (昭33エ)	平成25年 8月25日	学内より
永井 克彦 (昭36ゾ)	平成25年12月27日	尾身 東美(昭36ゾ)様より
遠山 明 (昭39ギ)	平成25年10月 2日	全漁連様より
山本 孝三 (昭39ゾ)	平成24年 9月 9日	ご家族様より
山岸 宏雄 (昭42ギ)	平成25年 8月 2日	山本勝太郎(昭42ギ)様より
青木 義博 (昭42ゾ)	平成25年 2月11日	ご家族様より
軽部 巧 (昭43エ)	平成25年 8月 4日	高橋 豊美(昭44エ)様より
清水 八洲男 (昭43エ)	平成25年12月 5日	大野 孝(昭43エ)様より
今川 和彦 (昭47ギ)	詳細不明	倉兼 賢治(昭46ギ)様より
梶 文俊 (昭47ギ)	平成25年 8月29日	西田 勤(昭47ギ)様より
谷本 登司 (昭47ギ)	詳細不明	倉兼 賢治(昭46ギ)様より
宝輪 満 (昭47食)	詳細不明	ご家族様より
角館 郁也 (昭59ギ)	平成25年 8月 1日	ご家族様より
小泉 広明 (昭62ギ)	平成26年 2月12日	青森県支部様より
佐々木 昇 (昭62化)	詳細不明	佐藤 雅己(昭62化)様より
村上 修 (平 8 ギ)	平成25年 9月28日	学内より

親潮投稿規定

【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛に封書で郵送するか、同窓会のメール宛に送付することとする。

【同窓生の声】

同窓会誌に対する意見、感想などについての投稿とする。個人的な連絡は掲載しない。一つの原稿につき300字までとする。同窓会宛のメール(alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp)のみ受け付ける。写真は入れられない。

【編集後記】

平成25年度「親潮」第2号(通算302号)をお届けします。

前号の親潮(301号)でもお伝えしました通り、新おしよ丸の建造が進められ竣工間近となっています。また、函館市弁天町の旧函館ドック跡地には、産学官の水産・海洋研究の拠点となる「函館市国際水産・海洋総合研究センター」が建設され、6月より供用開始される予定です。本年は、これらの見学会を兼ねた北水同窓会定期総会を8月2日(土)に開催します。当日は「函館港まつり」の期間中で、前日から宿泊されますと、天候次第で花火大会もお楽しみいただけます。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

特集「北水の今」は、北方圏フィールド科学センターの山本 潤(平5ギ)先生に、昨年、メディアの大きな話題をさらったイカの飛行について執筆していただきました。飛行シーンに遭遇し、撮影できたのは幸運だったかも知れませんが、背景には、大変なご努力があったことと思います。写真を見て、飛行機のように飛ぶイカの姿も衝撃的でしたが、真っ青に見えるイカの色にも驚きました。

平成26年度第1号は通算303号目の親潮になります。原稿の締め切りは、平成25年7月10日(必着)とさせていただきます。寄稿につきましては、郵送もしくは電子メール(alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp)にて受付をしております。支部報告や同期会報告、著書の紹介など、皆様ふるってご投稿下さいませようお願い申し上げます。詳しくは上欄の投稿規定をご参照下さい。

(編集幹事/田中啓之 平元化)

食中毒検査なら信頼と実績の中山薬品商会へ 一検体@1,000円~承ります。

NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD



株式会社 中山薬品商会

代表取締役 中山 一郎

本社 ☎040-0075 函館市万代町20番10号 PHONE(0138)40-6275・FAX40-3939
 釧路営業所 ☎084-0903 釧路市昭和町2丁目15番地3 PHONE(0154)52-4101・FAX52-4103
 札幌出張所 ☎065-0031 札幌市北3条東19丁目6番14号 PHONE(011)299-5493・FAX299-5493

http://nakayamayakuhin.jp

いま豊かな食生活。
見直しましょう魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場

中水

青森中央水産株式会社

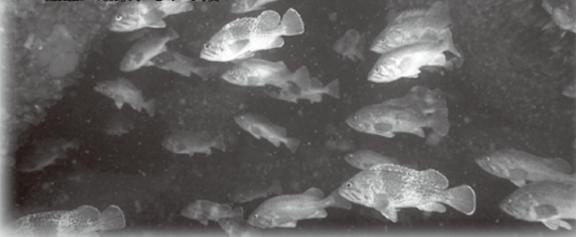
代表取締役社長 石川 栄一

〒030-0183 青森市卸町1番1号

鮮魚部	TEL 017(738)1281
冷凍部	TEL 017(738)8221
塩干部	TEL 017(738)5511
加工部	TEL 017(738)6581
企画部	TEL 017(738)1281
管理部	TEL 017(738)1181

ホームページ http://www.aochuu.co.jp

F.P.魚礁に集まるツイ類



オクトムに入礁するミズダコ
側近を遊泳するタヌキメバル



海洋土木株式会社

本社 東京都中央区銀座3-9-11

TEL: 03-3544-5511 http://www.kaiyodoboku.com

代表取締役 木實谷浩史(54ゾ) 取締役副社長 石井直志(49ゾ) 取締役札幌支店長 佐々木洋(53ギ)
 参 与 川真田憲治(48修増) 青森営業所長 山口伸治(49化) 札幌支店部長 村井和明(59ゾ)
 技術部次長 日和久典(平6ギ)



玉館竹田

株式会社 竹田食品

代表取締役 竹田 寿広

食卓に函館の味を



本 社 工 場 函館市浅野町3番10号
TEL(0138)43-1110(代) FAX(0138)43-1113
 札 幌 営 業 所 札幌市中央区北13条西19丁目1番1号(水産冷蔵配送センター3F)
TEL(011)623-0990 FAX(011)644-9910
 竹田食品販売(株) 東京都中央区築地7丁目5番3号(紀文第一ビル2階)
TEL(03)6226-6820 FAX(03)3545-2135
 竹田食品販売(株) 宮城県仙台市青葉区本町2丁目9番8号(日宝ビル5階3号室)
仙台営業所 TEL(022)772-1970 FAX(022)722-1987
 竹田食品販売(株) 大阪府大阪市淀川西中島4丁目3番5号(NLCセントラルビル5階)
大阪営業所 TEL(06)6307-5311 FAX(06)6307-5358



交通事故、労働災害、医療過誤、倒産、債務整理、サラ金破産
個人再生、未払い残業代請求、離婚、相続、遺言、成年後見

相談料は全て無料です

吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原美智世
(昭和48年増殖学科卒業)

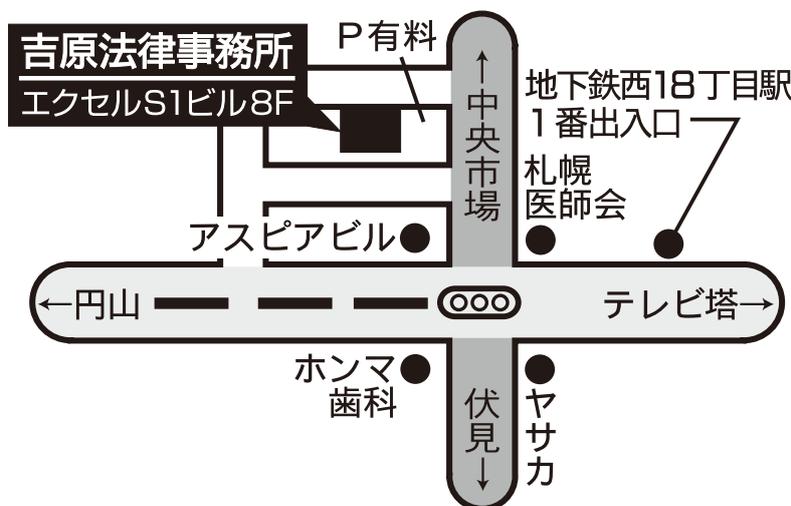
お気軽にお問い合わせ下さい

TEL 622-7963 FAX 622-8414

札幌市中央区大通西20丁目2-20(エクセルS1ビル8F)

(交通) 東西線西18丁目地下鉄1番出口

(E-mail) lawyer@yoshihara-lawoffice.jp



営業時間においでになれない方はご相談下さい。